



突撃!

リスクマネージャー!

122号

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

No.121 西脇市立西脇病院 医療安全室主幹 兼 看護局看護課長 宮崎裕子 様



【西脇病院／兵庫県西脇市】

■病院の紹介（抜粋）

- 昭和 26 年 3 月 国民健康保険直営診療施設町立西脇病院開設
【病床数 47 床】
- 昭和 27 年 4 月 市制施行に伴い西脇市立西脇病院と改称
【病床数 77 床】
- 昭和 45 年 10 月 全面改築事業完工【病床数 230 床】
- 昭和 55 年 7 月 「総合病院」承認
- 昭和 59 年 9 月 救急指定告示
- 平成 8 年 10 月 兵庫県東播磨内陸災害拠点病院指定
- 平成 13 年 6 月 病院機能評価一般病院種別 B 認定
- 平成 18 年 6 月 病院機能評価審査体制区分 3 (ver.5.0)認定
- 平成 23 年 8 月 病院機能評価 審査体制区分 3 (ver.6.0)認定
- 平成 24 年 11 月 一般病棟入院基本料(7:1)算定開始
- 平成 28 年 8 月 病院機能評価一般病院 2 (3rdG:Ver.1.1)認定

【病床数：320 床】

■病院の基本理念

地域に信頼される良質な医療の提供

■病院の基本方針

- 1 生命の尊厳と人権を尊重し、安全な医療に努めます。
- 2 地域の中核病院及び災害拠点病院としての役割を担います。
- 3 医療連携を深め、地域住民の健康増進に寄与します。
- 4 常に向上心を持ち、自己研鑽に励みます。
- 5 公共性を保つとともに、健全な病院経営に努めます。

1. 組織体制について

医療安全に関する組織体制を教えてください。

医療安全の組織は病院長の直下で、「医療安全対策委員会」「事故対策委員会」「医療事故分析チーム」が組織されています。医療事故分析チームについては医療安全室をはじめ、診療局・薬剤部・看護局・リハビリ部・検査部・放射線部、さらにカンファレンス内容によっては当該部署のリスクマネージャー、分析メンバーを加えて構成されており、週に 1 度のカンファレンスで、①日々の具体的な事例に対する細かい改善策や効果を検証 ②インシデント報告から重要事項についてメンバー間での情報共有 ③議題の分析・対策の検討 ④各部署へのフィードバック ⑤院内ラウンド 等を行って、組織横断的に予防策や再発防止策を検討しています。

当院は診療局・医療技術局・看護局・事務局で合計 40 名の部署リスクマネージャーを配置していることが組織的な特徴といえます。

宮崎様の主な業務内容を、院内各部署との連携を含めて教えてください。

私の業務は以下の通りです。

- ①医療安全管理室の業務に関する企画立案及び評価
- ②インシデント・アクシデントの情報収集と分析
- ③各部署におけるリスクマネージャーへの支援
- ④定期的な院内巡視で各部門における医療安全対策の実施状況を把握・分析し具体的な対策の推進をすること
- ⑤医療安全対策の体制確保のための各部門との調整
- ⑥医療安全対策に係る体制を確保するための職員研修を企画・実施
- ⑦事故発生報告または連絡を受け、直ちに状況把握に努めること
- ⑧医療安全対策に係る患者、家族の相談対応

2. 転倒・転落事例情報の収集と対策について

近年の事例発生件数はどのように推移していますか？その原因はどのようにお考えですか？

また、事故軽減のための人的対策や注力されている活動があれば教えてください。

転倒・転落事例は電子カルテシステムの報告で集計しています。全体報告件数では微増しているように見えますが、ゼロレベルの意識が高い報告件数が増えることは、スタッフの報告意識や安全文化が高まっているからこそだと捉えています。

転倒原因の中で一番多いものは患者様のトイレ行動を発端とするものだと考えられます。

アセスメントやカンファレンス、日々の看護を通して、患者様に変化がないか様子を見ており、状況に合わせて環境対策や物的対策を施しながらスタッフの対応を徹底することとしています。



3. 医療安全に関する研修について

医療安全に関連した研修の取り組みについて教えてください。

看護局が主体となり、新人研修・フォローアップ研修などラダー別や全体研修などを実施しています。水準の高い看護実践を目指しており、日本看護協会認定看護師の育成にも積極的に取り組んでおり、現在各分野（感染管理認定看護師・皮膚・排泄ケア認定看護師・摂食・嚥下障害看護認定看護師・がん性疼痛看護認定看護師・緩和ケア認定看護師・がん化学療法看護認定看護師・糖尿病看護認定看護師）で合計7名在籍しています。

医師や他の専門職が連携してチーム医療を推進し信頼され安心される看護を提供するために実践に活かせるような研修内容にしています。

4. 離床センサーについて

貴院使用機種： コールマットN・ハイパー ×6 台 / コールマット・徘徊コールⅢ ×2 台
ハイパー超音波・赤外線センサー ×25 台 / 簡易型受信器シンプル ×19 台
徘徊ナビ名札 ×1 台

離床センサーを使用する場合の基準や管理方法を教えてください。

転倒・転落アセスメントシートで分類して看護計画を立案し、再評価を繰り返しながら、離床センサーを活用しています。当院の特徴は、使用面で汎用性のある「超音波・赤外線コール」と簡易型受信器シンプルを組み合わせで使用していることだと思います。対象者の状態に合わせて設置場所を変更できるので毎回工夫しながら使用しています。また、センサーからの呼び出しがあった際に優先して対応ができるように、各対象者専用の受信器を持って対応しています。

※センサーの使用に関する工夫については今号の「現場レポート」でご紹介いたします。

5. メーカーへのご要望について

弊社の商品や顧客サービスについてご要望、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

「超音波・赤外線センサー」は様々な場所に設置出来ることや、その他の新しいセンサーがあることなど、知らなかったことがありますので定期的に教えていただくと嬉しいです。また、営業担当者が来院してスタッフと使用上の不安や課題を解消するためにワークショップを開催していただけることは大変助かっています。引き続きよろしくお願いします。

離棟や離院の課題も出てきていますので、今後は「徘徊ナビ」の活用を更に考えていこうと思っています。

6. 何か一言お願いいたします。

病院のPR やポリシーなどをお聞かせ下さい。

患者様に安心・安全な医療を受けていただけるように、スタッフ全員が高い意識で取り組めるような環境づくりをすることが私の役割だと感じています。

各部署のリスクマネージャーだけでなく、スタッフからも積極的に情報が入るような雰囲気づくりを目指してこれからも日々努力していきます。